

2023年3月29日  
株式会社三菱UFJ銀行

## ユニチカ株式会社で「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 <sup>はんざわ じゅんいち</sup>半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする「ポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「本商品」）」を提供しております。

本商品は、「持続可能な開発の3つの側面（経済、環境、社会）のいずれかにおいて潜在的なマイナスの影響が適切に特定され緩和され、なおかつ少なくともそれらの一つの面でプラスの貢献をもたらす」ことを企図するファイナンスであり、お客さまの事業活動が環境、社会、経済にもたらすインパクトを包括的に評価・モニタリングし、お客さまの ESG 経営を金融面から支援するものです。

本商品のインパクト評価は、当行が三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）と共同で策定した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス フレームワーク」（以下、「フレームワーク」）に基づいております。フレームワークには評価にあたっての基準や体制等が規定されており、株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）より、国連環境計画金融イニシアティブによる「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合している旨の第三者評価を取得しております。

この度、当行は、ユニチカ株式会社に対し「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約を締結いたしました。ユニチカ株式会社の事業活動に関連する重要なインパクト領域における評価結果は次の通りです。なお、本評価は、当行と MURC が共同で実施し、フレームワークに基づいた評価である旨を JCR より確認しております。

### 【本契約の概要】

#### 契約①

契約締結日	2023年3月24日
アレンジャー	三菱UFJ銀行
コ・アレンジャー	みずほ銀行
エージェント	三菱UFJ銀行
組成額	841億4800万円
資金使途	事業資金
貸出人	計28金融機関

#### 契約②

契約締結日	2023年3月24日
アレンジャー	三菱UFJ銀行
コ・アレンジャー	みずほ銀行
エージェント	三菱UFJ銀行
組成額	69億円

資金使途  
貸出人

設備資金  
計 5 金融機関

#### 《本件の概要》

ユニチカは、サステナビリティ経営の推進にあたり、「サステナビリティ方針」を定め、「ユニチカグループは事業活動を通じて暮らしと技術を結び、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。」という方針のもと、事業活動を通じて環境・社会課題の解決に取り組み、企業価値の向上と持続可能な社会の実現を企図しています。

本契約の締結にあたり、SDGs（持続可能な開発目標）の目標達成に対しインパクトを与える活動として、ユニチカ株式会社の事業及び重要課題から以下のテーマを選定しております。

#### 【ポジティブ・インパクトの創出に関する評価】

インパクト領域	活動内容とインパクトの状況
＜経済＞ 経済収束 資源効率・安全性 ＜環境＞ エネルギー 水（質） 気候 廃棄物  ＜社会＞ 食糧	3つの暮らしに貢献する素材の提供による社会・経済に付加価値をもたらす多様かつ革新的な市場の発展への貢献 ・安全で安心な暮らしの実現 ・便利で快適な暮らしの実現 ・環境と共生する暮らしの実現 ┌ ガスバリアフィルム、防護服、マスク、差別化不織布、機能性樹脂、ガラス繊維、「ユニアミド」、シリコンフリー離型フィルム、マテリアルリサイクル繊維、溶液分離用中空糸膜、「テラマック」繊維、リチウムイオン電池用ナイロンフィルム、リサイクルフィルムといった素材の製造・販売による、社会・経済に付加価値をもたらす多様かつ革新的な市場の発展への貢献 【ポジティブアウトカム例】 ・再生可能な資源を利用した素材の提供 ・資源効率性の向上に貢献するリサイクル素材の提供 ・エネルギー使用量の削減に貢献する素材の提供 ・食の安全・安心に貢献する素材の提供 ・食品ロスの軽減に貢献する素材の提供 ・水環境を通して安全・安心な生活に貢献する素材の提供
＜経済＞ 包括的で健全な経済 ＜社会＞ 雇用	ダイバーシティの推進 ┌ ダイバーシティ推進、とりわけ女性活躍推進を加速させるため、2018年4月にダイバーシティ推進グループを設置 ┌ 役員を含めたマネジメント層の意識改革のための研修、女性従業員向けの研修を実施 ┌ 多様性のある人材（留学生・障がい者・定年後の再雇用「エルダー社員制度」を含む）の採用や、多様なキャリアの採用（中途採用やリターン雇用制度）を積極的に実施 ┌ 女性管理職比率（海外を含む全グループ） 2021年度実績：5.9% ┌ 本社新卒採用（総合職）女性比率（ユニチカ）2021年度実績：16%
＜社会＞ 雇用	・従業員に対する育児・介護支援 ┌ 社員の仕事と生活の両立を促進するため、残業削減のためのノー残業デーの実施、法定を上回る育児休職、介護休職、子ども看護休暇、介護休暇などを導入 ┌ 一部部署ではフレックスタイム制度を整備するほか、在宅勤務が可能な職場（本社など）では、リモートワークを促進し、在社率を削減している。また「平均残業時間10時間未満」を目指して、生産性の向上への

	<p>取組</p> <p>└ 男性育休取得比率 2021 年度実績：31%（ユニチカ㈱及び一部グループ会社*）</p> <p>* 日本エステル㈱、ユニチカトレーディング㈱、ユニチカテキスタイル㈱、ユニチカグラスファイバー㈱、ユニチカゲーメンテック㈱</p>
<p>&lt;経済&gt; 経済収束</p>	<p>・ サプライチェーンマネジメントの強化</p> <p>└ CSR 調達アンケートを 2022 年度に実施し、サプライチェーンにおける購買方針の周知と改善活動を通じて、サプライチェーンマネジメントを強化</p> <p>└ アンケートでは①法令の順守、②地球環境との調和、③人権と労働環境の向上、④製品安全・品質保証、⑤化学物質管理のカテゴリーから関連する設問を設定</p> <p>└ アンケート対象 199 社（ユニチカの購買部門における取引金額 80%の取引先とユニチカトレーディング株式会社の取引金額 72%の取引先の合計）</p> <p>└ CSR 調達アンケート回答率（主要取引先）2022 年度実績：87.4%</p>

**【ネガティブ・インパクトの緩和・管理に関する評価】**

インパクト領域	インパクトの状況と、緩和・管理の状況
<p>&lt;環境&gt; 気候</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <p>・ 製品・サービスの生産時における GHG の排出</p> <p>└ ユニチカグループ国内全事業所（本社、営業所を含む）の 2021 年度の CO<sub>2</sub> 排出量は Scope1 と Scope2 を合わせて 279kt-CO<sub>2</sub> であった。</p> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p> <p>・ サステナビリティ委員会にて、進捗を確認し、（必要に応じて）施策の見直しと追加を実施</p> <p>└ 環境委員会においてグループ全体の環境関連の取り組みを管理し、具体的な省エネ活動についても取りまとめている。</p> <p>└ 省エネ活動として、毎年、生産活動を行う事業所や関連会社ごとにとりまとめられた省エネテーマを共有し、その進捗を確認している。</p> <p>└ エネルギー消費原単位やエネルギー消費量、CO<sub>2</sub> 排出量を確認し、エネルギー消費原単位 1%/年改善を目標に省エネ活動を推進している。</p>
<p>&lt;経済&gt; 資源効率・安全性</p> <p>&lt;環境&gt; 廃棄物</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <p>・ 製品・サービスの生産時における廃棄物の発生</p> <p>└ 2021 年度は、生産活動が活発化したことで事業所での廃棄物量が増加</p> <p>└ 2021 年度産業廃棄物場外処理量実績：6,883t（2019 年度比 6%削減）</p> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p> <p>・ サステナビリティ委員会にて、進捗を確認し、（必要に応じて）施策の見直しと追加を実施</p> <p>└ 従来は廃棄物としていた不織布クズやガラス繊維クズの有価物化や、排水の下水道放流への切り替えなどを実施。</p> <p>└ 工程内での再利用や廃プラスチックの再利用を推進するとともに、新たな利用方法を模索。</p>
<p>&lt;社会&gt; 人格と人の安全保障</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <p>・ 強制・児童労働の発生可能性</p> <p>└ 2021 年度 人権関連教育の実施率実績：39%（国内）（海外は未実施）</p> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p>

	<p>・ユニチカグループでは、これまでもグループ会社ならびに海外法人において、「国際人権規約」や「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」などの各国際条約に反する強制労働および児童労働を一切行っていないことを言明してきた。</p> <p>└ユニチカ人権方針ならびに、参照した各国際規範に則り、引き続き、強制労働および児童労働の排除に向けて活動を推進。</p>
<p>&lt;社会&gt; 保健・衛生 雇用</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の労働安全衛生</li> <li>└2021年度 休業災害発生件数実績：1件</li> </ul> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央安全衛生委員会を中心として、「休業災害ゼロ」を目指した安全衛生活動を各事業所、各関連会社で実施。</li> <li>└グループ内の安全衛生担当者が参加する安全衛生管理者会議を年3回開催し、労働災害の解析と対策、全社的な課題への取り組み状況、法規制の改正動向などの情報を共有している。</li> <li>└2020年度に不休災害を含む労働災害が多発したため、グループ全体で「安全総点検」を実施し、職場に潜む災害の芽を減らす活動を実施した結果、2021年度は労働災害の発生件数を前年度から60%以上減らすことができた。</li> </ul>
<p>&lt;社会&gt; 保健・衛生 雇用</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員の健康への影響</li> <li>└メンタルヘルス</li> <li>└長期療養からの復職</li> <li>└生活習慣病・疫病の発生</li> </ul> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省の「労働者の心の健康保持増進のための指針」に基づいて、入社時および昇格時にメンタルヘルス研修を行い、従業員の「心の健康づくり」に積極的に取り組んでいる。</li> <li>└毎年ストレスチェックを実施し、メンタルヘルスケアの一次予防として、高ストレス者にはストレスが軽減されるよう対応を進めている。</li> <li>・長期療養からの復職</li> <li>└長期療養から円滑に復職できるよう「復職支援ガイドライン」を定めている。</li> <li>・生活習慣病対策、疫病予防対策</li> <li>└35歳未満の定期健診時（年1回）では、法定項目ではない血液検査や心電図検査を実施し、中高年になる前から従業員自身が健康管理に関心を持つよう働きかけを行っている。</li> <li>└インフルエンザ予防接種を各事業所にて実施し、従業員のインフルエンザ発症や重症化の予防を実施している。</li> </ul>
<p>&lt;環境&gt; 水（質） 大気 土壌</p>	<p><b>【インパクトの状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排水等における有害廃棄物の排出</li> <li>└人の健康や生態系に害を及ぼすおそれがある、PRTR制度（化学物質排出移動量届出制度）対象物質などの排出</li> </ul> <p><b>【緩和・管理の状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境委員会においてグループ全体の環境関連の取り組みを管理し、具体的な省エネ活動についても取りまとめている。</li> <li>・環境委員会では、生産活動を行う事業所や関連会社の排ガスや排水、産業廃棄物、騒音の管理状況や、環境負荷物質の排出状況、法規制への遵守状況を定期的にチェックするとともに、排水や排ガスの処理施設の</li> </ul>

	<p>管理状況、産業廃棄物や危険物質の保管状況などを現地に赴いて監査している。</p> <p>└PRTR 制度対象物質について、環境中への排出量の把握と削減に努めており、2021年度は、2020年度に比べ、移動量と排出量ともにわずかながら削減できた。</p> <p>└化学物質の審査および製造などの規制に関する法律（化審法）や欧州化学品規制（REACH）、化学品の分類および表示に関する国際的調和システム（GHS）、アジア各国の化学物質管理制度への対応を推進している。</p> <p>└排水処理設備の適切な管理により、水域への負荷低減に努めている。</p>
--	--

特定されたポジティブ・インパクトの創出を維持し、ネガティブ・インパクトの抑制を図るため、ユニチカによる今後の取組内容、目標、当行がモニタリングを実施する項目（KPI等）および、特定したインパクトの項番との主な対応関係については以下の通りです。

### 【目標（KPI）】

内容	目標とモニタリング項目（KPI等）
<p>3つの暮らしに貢献する素材の売上高増加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な暮らしの実現</li> <li>・便利で快適な暮らしの実現</li> <li>・環境と共生する暮らしの実現</li> </ul>	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 2019年度比売上高 2.6倍（2019年度を1とする比率）</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの暮らしに貢献する素材の売上高増加率（2019年度比）</li> </ul>
ダイバーシティの推進	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 女性管理職比率（海外を含む全グループ）：20%</li> <li>・2030年度 本社新卒採用（総合職）女性比率（ユニチカ㈱）：30%</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性管理職比率（海外を含む全グループ）</li> <li>・本社新卒採用（総合職）女性比率（ユニチカ㈱）</li> </ul>
従業員に対する育児・介護支援	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 男性育休取得比率：50%（ユニチカ㈱及び一部グループ会社*を対象）</li> </ul> <p>*日本エステル㈱、ユニチカトレーディング㈱、ユニチカテキスタイル㈱、ユニチカグラスファイバー㈱、ユニチカゲーメンテック㈱</p> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性育休取得比率</li> </ul>
サプライチェーンマネジメントの強化	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 CSR 調達アンケート回答率（主要取引先）：80%</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR 調達アンケート回収率（主要取引先）</li> </ul>
製品・サービスの生産時におけるGHGの排出量削減	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 Scope1、Scope2 排出量 2013年度比 46%削減</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Scope1、Scope2 排出量（削減率）</li> </ul>
製品・サービスの生産時における廃棄	<p><b>【目標】</b></p>

物の発生量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 産業廃棄物場外処理量：6,621t（2019年度比10%削減）</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物場外処理量</li> </ul>
強制・児童労働の発生抑制（人権関連教育の実施推進）	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 人権関連教育の実施率（海外を含む全グループ）：20%（毎年20%（以上）の従業員を対象に教育を実施、5年で全グループ一巡）</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権関連教育の実施率</li> </ul>
従業員の労働安全衛生推進（休業災害の抑制）	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度 休業災害発生件数：0件</li> </ul> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休業災害発生件数</li> </ul>
従業員の健康への影響抑制	<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030年度健康経営優良法人認定（ユニチカ(株)及び一部グループ会社*）：①認定取得 ②ホワイト500</li> </ul> <p>*日本エステル(株)、ユニチカトレーディング(株)、ユニチカテキスタイル(株)、ユニチカグラスファイバー(株)、ユニチカゲーメンテック(株)</p> <p><b>【モニタリング項目（KPI等）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①健康経営優良法人認定の取得状況</li> <li>・②ホワイト500の取得状況</li> </ul>

当行は、特定されたインパクトの創出状況やネガティブ・インパクトの緩和・管理の状況、目標、モニタリング項目（KPI等）の状況について、ファイナンス期間にわたり年1回モニタリングを実施してまいります。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまのESGの取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以上